

令和4年度 第3回 桐生市環境先進都市将来構想推進協議会ゆっくりズムのまち桐生ワーキンググループ議事録

1. 日 時 令和4年10月13日（木）19：20～20：40

2. 場 所 桐生市役所 新館5階 501会議室

※令和4年度 第2回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会終了後に開催

3. 出席者

(1) 委員（14人）

会 長：天谷 賢児 [群馬大学大学院理工学府 教授]
副 会 長：近藤 圭子 [きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長]
委 員：西菌 大実 [群馬大学共同教育学部 教授]
藤生 五郎 [桐生商工会議所 副会頭]
茂木 理亨 [桐生商店連盟協同組合 副理事長]
深澤 光秋 [新田みどり農業協同組合 総務部長]
新井 悠大 [桐生広域森林組合 業務部部長]
今泉 芳雄 [桐生市家畜自衛防疫協議会 会長]
佐羽 宏之 [2015年からの生活交通をつくる会 会長]
小島 由美 [未来創生塾 副塾長]
中野 久美 [桐生市女性人材リスト（建築設計）]
村上 恵理 [桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長]
(欠席者) 根津紀久雄 [特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長]
坂本久美子 [桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）]

(2) 関係団体(識者)（2人）

織都桐生案内人の会 会長 芳山 和弓
桐生市みどりと花の会 幹事長 福田 勝巳

(3) 事務局（4人）

高橋環境課長
金子環境都市推進係長
高橋主任
片貝主事

4. 議事要旨等（※関係団体様の発言は『識者』と表記しています。）

【会 長】

前回のワーキンググループに引き続き、織都桐生案内人の会の芳山会長、桐生市みどりと花の会の福田幹事長にお越しいただいた。本日は、前回のワーキンググループの続きとし、本年度の検討事項となる『市内の歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくり』と、『市花であるサルビアなどを中心に市内の花や緑を楽しむことができるまちづくりについて』の2項目を実施していくための検討を行いたい。また、本日午前中に水路をめぐるまち歩きとして、織都桐生案内人の会主催イベントが開催されたのでその時の様子をうかがいたい。

【委 員】

本日開催した水路めぐりについて、水路沿いを4キロにわたって歩いた。午前9時10分頃から一番早い班は市民文化会館を出発し、赤岩用水沿いを新宿方面へ向かって歩いた。赤岩用水がどのような形で利用がなされていたかを知ることができる内容となる。

また、桐生は新町よりまちがつくられており、なぜ新宿ができたのかなどの歴史や、桐生の自然環境の中でのまちづくりを知る内容となる。赤岩用水について、水路はきれいに維持管理されており、生活景観の一部になっている。主要な所は暗きょうになっているため、水量を見ることはできない。水路は、農業用水であるため、その他の利用は難しいと考えられるが、もう少し活用があればいいと感じる。水路沿線は、かつての繊維のまち、水流を活用した人々の生活が今でもうかがえる。新宿周辺は、ノコギリ屋根の工場が今現在も散見され、実際に工場としても利用されている。今回は、休憩も兼ねて朝倉染布さんと笠盛さんのファクトリーショップ2箇所へ立ち寄るコースとなった。

【識 者】

今回は3班編成で巡った。参加者は40代から70代の26名となり、ほとんど市内の人となる。織都桐生案内人の会自主企画は、通常休日に実施しているが、平日での実施を今回初めて行った。笠盛さんのファクトリーショップが土日休みなのでトイレ休憩も兼ねて今回調整した。

【会 長】

桐生の水の歴史を知る良い機会である。桐生は身近に水路があるととても良い環境にある。一人で歩く場合に、今回巡った場所は案内板など表示があるのか。

【識 者】

表示があるのは閑居川くらいである。案内板が無いとわからないと思う。商工会議所の裏も川が流れているが、説明が無いとわからないと思う。

【会 長】

案内を載せたガイドマップのようなものがあればわかるのか。

【委 員】

今回案内した内容を落とし込み、ガイドマップの様にすればできると考える。また、パンフレット形式で何コースか掲載すれば費用面でも可能であると考え。

【会 長】

景観としては良いが、水路を活用することについてはどのように考えるか。水利権があり勝手にはできないが、水力発電を利用し、携帯電話やEVなどに充電するなど活用が考えられる。

【委 員】

冬の時期は水量が無いので、水車は難しいと思う。

【会 長】

水利権を取得すれば冬でも利用できるが、水利権取得にはいろいろと障壁があるため難しい。なお、国は再エネを推進している。

【委 員】

国でも推奨している小水力発電を活用し、街灯を点灯させることもできる。太田市では、防犯灯を犯罪抑止のために設置しているようだが、桐生市はエネルギーのために設置すればイメージも良いと考える。

【会 長】

過去に国の委託事業である『緑の分権改革事業』で赤岩用水の発電能力調査を行った。

【委 員】

日本織物(株)の発電所は、最終的に今の水量位で 580kW 発電していたので発電ができないわけでもない。

【会 長】

580kW であれば 200 軒くらいの住宅の電力を賄うことができる。ただし、発電するにはそれなりの落差は必要となる。

【副 会 長】

昔は水量があったと聞いている。子どもの水難事故もあったようだ。今は整備されているので水害も少なくなった。

【識 者】

新宿通りに昔設置されていた水車の形状を見ると、よほどの水量が無いと回らないと推測される。

【会 長】

亀田先生がかつて水車を復活させる取組を行っていた。桐生には水車文化があり、今でも大澤木工さんが水車を作っている。

【事務局】

用水は、元宿浄水場から取水し、飲水用と農地への取水となっている。基本的には農業用水なので冬場の非かんがい期は取水量が減ることとなる。水力発電用の水利権については、今現在農業用水と飲水用の2つの水利権を得ており、発電を行うためには、新たにもう1つ発電用の水利権を取得する必要がある。懸案事項としては、近年農地が減少傾向にあるため、今後取水量減少が予測される。また、取水設備の災害に備えた改修など対策が必要とされている。

【委 員】

実現の可能性はあると思う。

【会 長】

機織りは水の力で稼働していた。桐生は水でできたまちでありシンボルになると考える。水路活用の研究を含めてまち歩きができるとより楽しくなる。

【委 員】

本日の水路めぐりに参加した。水路は石垣になっており玉石が積まれ造られていた。とても風情のあるものなので、水車を設置するために水路の構造を改修してしまうと意味が無くなってしまう。

【会 長】

下掛けの水車であれば水路の構造を変えなくても設置は可能と考えられる。なお、水車は音も出るので地域住民の合意が無いとできない。

【委 員】

桐生市のシンボルは重伝建である。重伝建地区にかつてあった水路を復元すると良い。当時のインフラでもあったので、そのことも含めて整備してはどうか。

【会 長】

昔の水路は、旧桐生女子高等学校の裏の桐生川から取水し、天満宮を通るルートであった。

【識 者】

かつて、天満宮の中の水路を使い、水車の動力でからくり人形を動かしていたようである。

【会 長】

『市内の歴史的文化的資源・川や水路などを歩いて楽しむことができるまちづくり』においては、市内の資源を巡れるような仕組みづくりができれば良いと考える。令和4年11月27日(日)に第5回目の『未来の環境の集い』を計画している。その中で、本日の水路歩きの事を発表いただければと考える。

『市花であるサルビアなどを中心に市内の花や緑を楽しむことができるまちづくり』について、前回議論を行ったものをまとめた。サルビアの種の購入予算を次年度ある程度確保し、どのように植え、その後、管理するのか議論を行った。町内会の一斉清掃で実施する意見があり、また、教育機関を通じて、幼稚園児から高校生まで取組ができるのではないかといった意見が出た。街なかである商店街へ植栽することや、駅への緑化活動を行っている2015年からの生活交通をつくる会の方と一緒に活動ができないか意見が出た。新里地区で社会福祉協議会と障がい者施設が取組を既に行っていることから、実施方法についての情報をいただいた。実現に至るルートは個々にあり、これを結びつけ、種を配布できれば実施可能であると考え。

植栽後は、まち歩きとしてサルビア巡り、フォトコンテスト、オープンガーデンを実施する等色々なアイデアが出てきた。このようなアイデアを次の『未来の環境の集い』の中で発表していきたい。本日は、具体化するための議論を行いたい。

【会 長】

サルビアを植栽するため面積としてはどれくらい必要か。1万株程度植えることは可能か。

【識 者】

種からサルビアを育成させる場合、最初は育苗の工程になるので小さくても問題は無いが、苗になるとある程度の面積は必要である。

【会 長】

育成の方法として、造園業者や学校に依頼すればできるのか。

【識 者】

造園業者であれば、苗を買うことも可能であるが、失敗することも勉強になるので、種から育てることも良いと感じる。

【会 長】

サルビアの植栽について来年度の予算確保の見通しは。

【事務局】

令和5年度の予算編成時期に合わせて計上していきたい。

【会 長】

予算がつかない場合に、他の方法は考えられるか。

【委 員】

グリーンカーテンの種配布の予算を流用してはどうか。

【識 者】

過去に、自主事業として手弁当で実績をつくり、予算化が認められたこともある。

【会 長】

サルビアを育成していく仕組みづくりはすぐにはできないので、仕組みについても『未来の環境の集い』で意見をもらえればと考える。また、地区の一斉清掃の場を活用し、モデル地区などを選定し、来年の春を目途に実現できればと考える。

【委 員】

区長会の場で取組の内容を説明し、サルビアの必要数量を確保できれば可能であると考え。

【会 長】

管理の仕方を町会の方にリーフレット等で周知すると分かり易いと思う。

【委 員】

取組を実施する意義も説明しないと意味が無い。ゆっくりズムの趣旨を説明する必要がある。

【会 長】

実施の意義として、植栽の横に『ゆっくりズムのまち桐生』の冠表示をし、ライフスタイルの転換・郷土愛の醸成の啓発活動として実施している旨表示できれば良いと思う。

【委 員】

サルビアは吾妻公園でも栽培している。今現在図書館と桐生高校入口の間にある交差点にサルビアを植栽している。維持管理の問題もあるため、来年も吾妻公園で苗を育て、桐生市の婦人団体の協力のもと実施する予定である。このような協力体制でもやりやすいと思う。苗の状態から植栽の手伝いをしてもらえば比較的簡単に実施できると思う。

【委 員】

市内のデイサービスにサルビアの種を配ってはどうか。折り紙を折る細かい手作業をやっているので、種まきをするのも良いと感じる。市内の各所に施設があり、また、道路沿いにあり駐車場も広く植栽面積もある。目に触れやすい利点がある。

【会 長】

趣旨として、サルビアが市の花であることや、増やしていきたいことが伝われば実行できると思われる。

【会 長】

桐生ガスさんの敷地では実施可能か。

【委 員】

桐生ガスは、敷地はあるが維持管理が課題となる。

【識 者】

維持管理は主に水やりがメインとなる。

【委 員】

サルビアの種類はどれほどあるのか。

【委 員】

サルビアの種類は沢山ある。赤いのは有名で背丈が異なる種もある。ホームセンターには青い色のブルーサルビアも販売している。寄せ植えをしやすい花である。

【会 長】

協力者を募り、市内各所に植栽できれば、回遊するコースもできる。

【委 員】

サルビアの様々な種類の種を混ぜて配布すると面白いと思う。

【委 員】

ゆっくりリズムのまち桐生が分かる取組が重要であるため、例えば、シンボルマークを作るとずつついてまわるので効果的であると考えている。

【委 員】

ゆっくりリズムとして、まちをのんびりと歩く中で、休憩できるベンチが無いと感じる。理想としては、ベンチの横にサルビアが咲き、その横には水力発電により街灯が点灯している風景である。また、そのエネルギーで携帯電話も充電できるスポットになると面白いと思う。

【会 長】

理想となるアイデアをまとめて、仮想の絵にできると良いと感じる。

【識 者】

サルビアのまちとして、サルビアを探して歩こうという企画も面白い。以前、自主企画イベントで、桐生の七不思議のまち歩きを行い、本町の銘菓処舟定さんに協力してもらったことがある。商店街を探索しながら、また、お店の歴史を聞くのも面白いと感じる。

【会 長】

様々な要素を組み合わせることによって、より効果的になると感じる。

【識 者】

市内に点在するアート作品を探索する企画を来月11月20日に予定している。市内にはパブリックアートが沢山ある。例えば、郵便局には避雷針の様なものがあり、図書館には椅子の様なものがある。市民文化会館にも多くあり、市役所の周りや商工会議所内のケービックホールにもある。来年はこのような形で本町を巡ることを検討している。

【会 長】

来月実施予定の『未来の環境の集い』では、桐生の地域資源を活かすことがテーマとなっている。「水路巡り」や「アートに出会う」の実施内容を紹介いただき、参加者から意見を聞けたら良いと感じる。また、もう1つはサルビアのことで話題提供ができればと考える。

2つのテーマの他に、佐羽委員がトヨタのコムスを利用した超小型EVの生活交通実証実験を行っており、取組について紹介いただければと考える。

【委 員】

未来創生塾では、市場を学ぶこと・地産地消・地域の活性化・CO2削減の取組を目的とした地場産野菜の販売体験を以前『未来の環境の集い』にて同時開催していた。近年は実施していなかったが取組をまた一緒に行いたい。また、桐生の地域資源を活かすテーマにおいて、先日10月10日に織都桐生案内人の会サポートの下、未来創生塾の子ども達が小学生に対し日本遺産をめぐるツアーを実施した。その取組について、勉強した事や、感じたことを発表すると良いと思う。

【会 長】

サルビアについては、来場者へ地域に植える所がないか投げかけられると良いと考える。

【委 員】

会場からの意見をもらうには、テーマに沿った厳密な意見ではなく、ゆっくりズムにつながる意見なら良いとすると言いやすいと思う。『ゆっくりズムのまち桐生』をみんなで作ることが最終目標であり、それに対する意見として、ゆっくりリズムとは何か、スローモビリティの活用やライフスタイルの転換を促す事等をディスカッションの中で紹介すると良いと思う。

また、ディスカッションは、3つのテーマを報告した後に全体意見として実施すると分かり易くて良いと思う。その際、パネルディスカッション形式にすると話しやすいと思う。

【会 長】

『ゆっくりズムのまち桐生』のロゴ作成について、市としてロゴを公募して決定することは可能か。

【事務局】

市として策定する場合においては、広く公募をかけなくてはならないため、策定するまでに時間を要してしまう。協議会としてロゴを作成できれば早くできると考える。

【委 員】

桐生大学のアートデザイン学科の生徒に依頼してはどうか。

【会 長】

依頼した場合に、報酬等は難しいと思う。

【委 員】

学生は実績があると就職活動に役立つため、報酬は無くても紹介されれば喜ぶと思う。

【会 長】

ロゴの使用を市の許可制にすると他の団体活動で普及しやすくなると感じる。市が認定し活動してもらい等が考えられる。公式に市としてロゴを公募した方が良い面もあると思う。協議会で作成した場合には、市へロゴの案を提案としてあげ、許可をいただくことが考えられる。

【委 員】

ロゴの候補ができれば、『未来の環境の集い』にて来場者に投票してもらいのも良いと思う。

【委 員】

『ゆっくりズムのまち桐生』は市の上位の計画に位置付けても良いと感じる。総合計画の『伝統織りなす粋なまち桐生』はどこの市でもうたうことはできる。市の冠にするぐらいが良いのではと思う。

また、『ゆっくりズムのまち』を商標登録してはどうか。ゆっくりズム＝桐生となるような取組方が良いと感じる。

【事務局】

上位計画等に位置づけられるように検討を進めている。例えば、SDGs の計画の中で位置づけを行うことも効果的であると考えている。

【委 員】

SDGs は世界規模でのあたりまえの取組になってきている。ゆっくりズムが主軸となりうる計画

が良いと考える。

【会 長】

『未来の環境の集い』当日は、関係のある方・団体の方などには是非来ていただきたい。残り約1カ月となるので広く周知をかけていきたい。

以上